

A study on parenting and childcare family support of Chinese mothers in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43117

在日中国人母親の子育てとその家族からの 支援の特徴に関する研究

李 劍, 木村留美子*, 津田 朗子*

要 旨

本研究の目的は、在日中国人母親の子育てとその家族からの支援の特徴について、その実態を調査することである。対象者は6歳以下の子どもを持つ母親21名である。インタビューの承諾を得られた者は、中国人の夫を持つ母親が10名、日本人の夫を持つ母親が11名である。調査内容は在日中国人母親の家庭生活、夫婦の育児分担状況、家族からの支援状況である。中国人の夫を持つ母親は、育児の方法、家庭内の生活スタイルが中国と同じで夫からの支援を多く得ていた。しかし、中国にいる両親からの支援は得られにくく、より多くの支援を得たいと考えていた。一方、日本人の夫を持つ母親は、夫に対しての積極的な家事や育児の支援を望んでいるが、得られにくい状態であった。また、日本での生活全般が日本人の生活と同様のスタイルになる傾向にあり、多忙な日々の中で、日本文化を受け入れながら生活していた。したがって、同じ中国人の母親であっても、配偶者の国籍や文化的な背景の違いより、子育てに対する家族からの支援も大きく異なっていることが今回の研究から明らかになった。

KEY WORDS

Chinese mother in Japan, childcare support, international marriage

はじめに

日本法務省入国管理局の統計¹⁾によると、日本に在住する外国人登録者数は年々増加している。2013年度末現在では約206万人であり、日本総人口の1.64%を占めている。外国人登録者の出身国からみると、中国人は在日外国人の全体の31.4%を占め最多である。また、在日外国人で、15歳から49歳までの生産可能年齢人口は全体の71.1%を占めているが、そのうち在日中国人は84%を占め、在日外国人女性の出産数の最多である。また、国際結婚者で外国人妻は17198組²⁾であり、そのうち中国人女性性は41.7%を占め、最多である。このように、在日外国人妻が年々増加している中で、彼らの育児やその支援に関する研究の必要性が認識³⁾されるようになってきているが、その研究はまだ少ない。出身国別にみると在日ブラジル人、フィリピン人の母親を対象とした研究はあるが、最も多い中国人母親を対象とした研究はまだ少い^{4,5)}。

楊・江守は、0~6歳の子どもを持つ在日中国人母親の育児ストレスに関する実態調査を行い、在日中国人母親

の多くは日本の保育園を利用したいと思っているが、できない状況があることを報告しており、日本語レベルの低い母親への日本語学習の機会の提供あるいは母国語での育児相談の場の提供などの支援が必要であると述べている⁶⁾。

川崎・麻原は、異文化適応を考慮した在日中国人母親における各段階の育児困難さと母親の心の変化や対処に着目し、育児を始めることで文化変容を迫られ、母親になると同時に異文化適応を経験していることを示唆している⁷⁾。

在日中国人母親を対象とした先行研究では、育児ストレスや異文化における育児経験の困難感と対処プロセスに関する研究は行われている。しかし、育児に関連する重要な因子である配偶者および家族・親族の母親に対する子育ての影響要因の研究はみあたらない。

1. 中国社会における子育てについて

近代化が進んでいる中国では、社会構造や家族構造が大きく変化し、「男は仕事、女は家庭」といった社会通

金沢大学医薬保健学総合研究科保健学専攻博士前期課程

* 金沢大学医薬保健研究域保健学系

念が、1949年の改革により法律にも男女平等が保障され、女性の社会進出が急速に進み、政治、経済、教育、婚姻、家庭における女性の地位は飛躍的に向上した。女性の就業は「経済上の自立」にとって不可欠であり、精神的支えとなっている。また、1980年から一人っ子政策により兄弟の助け合いは急減に薄れたが、子育てを母親一人に押し付けられることはなく、育児は家族全体の責任で行う考え方は保たれている。特に0歳からの家庭保育では、一人っ子政策採用後、父母のほか両方の祖父母が熱心に参加することが多くなり、その支援が得られない場合には、家政婦も兼ねる住み込みのベビーシッターの雇用も多く行われている。

2. 中国における母親への子育て支援

出産は女性にとって人生最大のイベントである。そのため中国では、出産後1か月の休養は「坐月子(ズオユエズ)」といい、最も注目されている産後の風習がある。以前は出産した女性の母体回復のために、沐浴や洗髪、歯磨きなどは禁止され、外気に体に冷されないように、生活上の様々な制限が加えられるといった伝統風習があったが、現代では、住宅に冷暖房が完備され、浴槽ではなくシャワーも利用できるため、状況に応じて入浴や洗髪が可能となった。しかし、変化していないのは、母体回復のため、安静にしつつ、東洋の医食同源に基づき、産婦に良いとされる食べ物をたくさん食べさせることや、この期間中には産婦は誰よりも大事にされること、基本的授乳の時間以外は何にもさせないなどの風習は今なお大切にされている。

したがって、このような環境の中で育った中国人女性が日本で生活し子育てを行う際には多くの困難が考えられる。また、日本人と結婚した中国人女性が日本の風習の中でどのような子育てを行っているのか、その実態は明らかにされていない。そこで、在日中国人母親の子育てとその家族からの支援の特徴について、その実態を明らかにし、支援のあり方についても検討する事を目的に本研究を実施した。

研究方法

1. 用語の定義

在日中国人母親：中国の国籍を持ち現在日本に在住し、子育てを行っている母親である。または、以前は中国の国籍を持ち現在は日本の国籍を取得しているが、自らは中国人であるとの意識を持ちながら、日本に在住し子育てしている母親である。

2. 対象者

対象者は日本語教室に通う母親や知人を介したスノーボールサンプリング法にて選定し、現在日本に滞在中で

6歳以下の乳幼児をもつ母親である。対象者に調査を依頼するときに「これは在日中国人母親に対する調査であり、日本に暮らしていても中国人との意識を抱きながら生活している」ことを調査の最初に確認し、調査への協力を依頼した。依頼した人数は全体で23名であり、そのうち2名からは同意が得られなかったため、対象から除外した。同意が得られなかった2人は日本人の夫を持つ母親であった。同意の得られた者は21名であり、内訳中国人の夫を持つ母親10名、日本人の夫を持つ母親11名である。

3. 調査方法

本研究では、まず始めに予備調査を行い、そこで得られた内容をもとに研究者らがインタビューガイドを作成し、調査に同意が得られた母親に半構造的インタビューを行った。調査場所は、母親の思いが自由に語れるようプライバシーが保障され、音響、照明、室温など環境が整っている対象者の自宅周辺の公民館や図書館の個室を使用した。また、対象者の希望によっては対象者の家にて実施した。調査内容は、在日中国人母親の家族構成、家族関係、家庭生活、夫婦の育児分担状況、家族からの支援状況である。面接者は日本語と中国語が両方出来る者であり、日本語が困難な対象者には、中国語で行った。インタビューは1名につき1~2時間のインタビューを1~2回行い、承諾を得てICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。録音の承諾が得られなかった場合は、面接者がインタビュー内容をその場で記録した。

4. 調査期間

調査期間は2014年11月12日から2015年2月16日である。

5. 分析方法

インタビュー内容を逐語録に起こし、逐語録データを繰り返し読み込み、在日中国人母親の子育てとその家族からの支援の視点から内容分析し、質的帰納的に分析を行い、類似する内容を集めカテゴリー化した。分析に偏りが生じないように、質的研究の経験が豊富な共同研究者とディスカッションを繰り返し、真実性の確保に留意した。なお、対象の年齢や在日年数、結婚年数の比較には統計ソフトSPSS Ver.19.0を用い、Mann-WhitneyのU検定を行った。

6. 倫理的配慮

研究参加者に対し、研究への参加は任意であり、回答の有無により不利益を被ることはないこと、途中の中断も可能であることを説明した。また、知りえた情報は調査以外の目的には使用しないこと、結果は研究の目的にのみ使用し、特定されることはなく、プライバシーに関わる情報は決して公開されないことを文書または口頭で説明した。なお、説明書と同意書は日本語版を準備して、

研究参加者に提供した。

個別データは、連結不可能匿名化し、施錠可能な錠棚に保管し、漏洩・盗難・紛失等が起こらないよう厳重に管理した。データは研究終了時に速やかに廃棄する。なお、本研究は金沢大学医学倫理委員会で承認を得て行った(承認番号557)。

結果

1. 対象者の背景・属性

対象者の属性は、表1に示した。母親全体の平均年齢は 32.0 ± 4.5 歳で、中国人の夫を持つ母親の平均年齢は 31.2 ± 5.1 歳、日本人の夫を持つ母親は 32.8 ± 4.4 歳であり、夫の国籍による年齢の差はみられなかった。夫全体の平均年齢は 37.4 ± 7.7 歳で、中国人の夫の平均年齢は 32.8 ± 4.4 歳、日本人の夫の平均年齢は 40.9 ± 8.3 歳であり、日本人の夫は中国人の夫より平均年齢が有意に高かった($p < .05$)。

中国人の夫を持つ母親の平均在日年数は 5.8 ± 3.2 年、日本人の夫を持つ母親の在日年数は 7.2 ± 4.5 年であった。中国人の夫を持つ母親の平均結婚年数は 6.5 ± 4.5 年であるが、日本人の夫を持つ母親の平均結婚年数は 4.7 ± 2.3 年であった。

中国人の夫を持つ母親の背景は表2に示した。6割の母親は職業が専業主婦であり、夫婦とも最終学歴が大学卒業以上の者は9割であった。日本人の夫を持つ母親の背景は表3に示す。約6割の母親は職業が専業主婦である。大学卒業以上の最終学歴を持つものは、夫が7割、母親は4割弱であった。

2. カテゴリーの説明

在日中国人母親の家庭生活、夫婦の育児分担状況、家族からの支援状況を分析した結果、14のサブカテゴリー、6つのカテゴリーが抽出された(表4、5)。中国人の夫を持つ母親と日本人の夫を持つ母親では子育て支援の内容に大きな相違が見られたため、以下結果をそれぞれに分けて説明する。なお、カテゴリーを《》、サブカテゴリーを<>で表す。

1) 中国人の夫を持つ母親の子育てと支援の特徴

カテゴリー1：《家事育児は夫婦で分担》

《家事育児は夫婦で分担》は3つのサブカテゴリーで構成されていた。<家事育児はやれる人がするのが当然>では、夫が中国人の家庭では、日頃の家事育児は夫婦で分担し、例えば平日夫が仕事や学業で忙しくても、休みの日にやれることをするのは当然と述べていた。<中国では両親の支援が得られる>では、中国では若者は日頃より両親からの支援を利用し、家事育児や仕事以外に自由な時間を確保することができる。しかし、日本に在住することにより、距離的、ビザや経済的などの関係のため、支援を得られない。または中国の両親が日本に来ることより支援を得ることができても、滞在が短期間であり、生活も不慣れたため、中国と比較すると、同程度とはいえない。また、中国では家政婦の利用が安くて便利であるが、日本では高いのでそれもできない。<子育てを夫婦するのは当然>では、中国では父親も母親も共に家族の家長であり、また2人とも子どもの保護者であるため、家事以外の子育ても2人で共同して担当すべきことだと述べていた。

カテゴリー2：《夫からの心理的支援》

《夫からの心理的支援》は、<夫が常に優しい言葉をかけてくれる>で構成されていた。中国人の夫を持つ母親の中では、夫の仕事や研究などの関係で、母親が家事育児を多く担当しており、家族のために苦勞をしている姿を夫が認め、夫からは常に優しい言葉をかけ、母親は心が安定し、協力的な夫婦関係が伺えた。

カテゴリー3：《産後の‘座月子’ (特別な時期の確保)》

《産後の‘座月子’ (特別な時期の確保)》は3つのサブカテゴリーで構成されていた。<1か月間の休息時間がある>と<積極的な両親の支援がある>では、中国の伝統風習により、中国人の夫を持つ母親は、日本で出産しても、中国の両親から積極的な支援をえることができる。それにより、母親は産後1か月間しっかり休養を取ることができる。<夫が積極的に育児休暇をとる>では、母親が産後‘座月子’という特別な期間に、両親の支援が得

表1 夫の国籍(中国・日本)による対象者の属性

		合計	中国人の夫を持つ母親	日本人の夫を持つ母親	p 値
		n=21	n=10	n=11	
年齢 (M±SD) (歳)	妻	32.0±4.5	31.2±5.1	32.8±4.4	.416
	夫	37.4±7.7	32.8±4.4	40.9±8.3	.041
来日年数 (M±SD) (年)	妻	6.5±3.9	5.8±3.2	7.2±4.5	.619
	夫	————	9.0±5.1	————	————
結婚年数 (M±SD) (年)		5.6±3.6	6.5±4.5	4.7±2.3	.545
子どもの数 (M±SD) (人)		————	1.5±0.5	1.5±0.5	————

年齢、在日年数、結婚年数の比較には Mann-Whitney の U 検定を行った。

られない場合でも、夫が積極的に育児休暇をとり、母子の世話をを行うということであった。

2) 日本人の夫を持つ母親の子育てと支援の特徴

カテゴリー1: <家事育児は全て母親が中心>

<家事育児は全て母親が中心>は、4つのサブカテゴリーから構成されていた。<夫の支援が得られない>では、日本人の夫を持つ母親は、産後1か月間の特別な時期であっても家事育児のほぼ全てを担当している。そのため、母親は自分の自由時間がなく、常に疲れていると述べていた。<日本人の夫が家事育児をしないのは日本の風習>では、母親が日本人男性は家事育児をせず、母親が家事育児を中心に行うことを日本の風習と認識しているので、自分もそれに従っていると述べていた。<言わないとやってくれない>では、日本人の夫は自ら家事育児を行う意識はほとんどなく、妻である母親から言わないとしてくれないと述べていた。<家族の支援が得られない>では、母親が中国の両親と遠く離れており、'産後1か月の特別な時期'でも、自分の両親と夫の間の言葉の壁や飲食習慣などの相違により、母親は家事の事や自分の事を自らしなければならぬため、家事が増え、家族全体からの支援がほとんど得られないと述べていた。

カテゴリー2: <義理の両親の支援を得るのは難しい>

<義理の両親の支援を得るのは難しい>は、2つのサ

ブカテゴリーから構成されていた。<義理の両親の習慣の違い>では、中国では家事育児は必ずしも母親が行うわけではない。一方、日本では'育児は母親の手'で行うものであると考えられており、こういった習慣上の違いをほとんどの中国人母親は理解しており、義理の両親の支援を期待していない。また、産後の'産後1か月の特別な時期'の過ごし方を義理の両親は理解していないため、支援を得るのは難しい。<義理の両親に頼みづらい>では、母親のそれまでの経験から、義理の両親に子どもを預けることは、気を遣うため、頼みづらいと述べていた。

カテゴリー3: <夫からの心理的支援がない>

<夫からの心理的支援がない>は、2つのサブカテゴリーから構成されていた。<夫から心理的な支援が得られない>では、家事育児で疲れている母親は、夫からの理解や優しい言葉かけを望んでいるが、夫の性格や文化的な違いなどにより得ることができず、仕方がないと述べていた。<夫は家事の経験がない>では、夫は家事育児をしない環境下で育てられているため、妻が家事育児の協力することを望んでも、義理の両親と暮らしているため、今も夫には伝わらず、支援がほとんど得られないと述べていた。

考察

本研究は在日中国人母親の子育てとその家族から支援

表2 中国人の夫を持つ母親の背景

対象者	年齢 (歳)	職業	在日年数 (年)	最終学歴	日本語能力	結婚年数 (年)	子どもの年齢
C1	妻 31	主婦(パート)	3	学士	やや困難	8	5歳
	夫 33	大学院生	4	博士課程在学中	日常会話程度		
C2	妻 34	専業主婦	9	学士	日常会話程度	10	6歳
	夫 38	大学教員	10	博士課程	やや困難		3歳
C3	妻 35	専業主婦	4	学士	日常会話程度	11	5歳
	夫 41	大学研究員	5	博士課程	挨拶程度		2歳
C4	妻 28	会社員	7	学士	堪能	4	2歳
	夫 29	大学院生	5	博士課程在学中	堪能		(妊娠中)
C5	妻 27	主婦(パート)	4	修士課程	堪能	2	1歳
	夫 32	大学教員	10	博士課程	堪能		
C6	妻 34	専業主婦	6	学士	やや困難	7	4歳
	夫 37	会社員	9	学士	堪能		2歳
C7	妻 25	専業主婦	5	学士	堪能	1	8か月
	夫 27	会社員	6	学士	堪能		
C8	妻 30	専業主婦	3	学士	日常会話程度	3	1歳1か月
	夫 31	会社員	6	修士課程	堪能		
C9	妻 28	専業主婦	4	高校	やや困難	4	3歳3か月
	夫 28	会社員	15	高校	堪能		2か月
C10	妻 40	大学職員	13	学士	堪能	15	12歳
	夫 40	自営業	20	修士課程	堪能		6歳

の実態を明らかにすることを目的に、在日中国人母親の家庭生活、夫婦の育児分担状況、家族からの支援状況についてインタビュー調査を行った。

対象者の属性からみると、対象者の配偶者である中国人の夫の方が大学院卒の者が複数にいるが、それは日本にいる中国人の長期滞在者は、留学、仕事、研究(実修)など、ビザを持つ者に限られた高学歴者が多いためである。したがって、本研究の対象者の夫は大学院を修了した者が多く、平均的な中国人家庭の状況とは多少異なるものとする。しかし、中国では夫の学歴の有無により夫婦の立場に相違はなく、家事育児は同等に行っている。したがって、本研究の結果に夫の学歴によるバイアスは大きな影響を及ぼしているとは考えにくい。

日本における日常的な家事や育児の分担では、中国人の夫を持つ母親の場合は、夫婦とも同じ文化背景をもっているため、家事や育児に対して一つのチームのように、夫婦共同で担当することへの意識が高い。夫の多くは正規勤務として働いているため、職場では日本人のように振り舞わなければならないが、妻の職業の有無にかかわらず、積極的に家事や育児に参加している姿が伺える。また、先行研究より在日中国人家庭においても、中国本

土と同様に、家族や親族のネットワークは主要な育児サポートとして行われており⁸⁾、特に母親の産後の援助と子育て支援は、本研究においても同様な結果が示された。しかし、家族からの援助が地理的に恵まれないため、中国で暮らすのと同程度の便宜な支援は得られていない。

一方、日本人の夫を持つ母親の場合は、夫及び家族からの家事や子育てへの支援が少ない。多くの母親が夫からの家事や子育てへの支援を望んでいるが、「夫の仕事が忙しい」や「家事や育児への支援をしてくれない、または積極的ではない」、「夫が家事や子育てをしないのは日本の風習」という理由を多く挙げているが、妻はそれに対して「仕方がない」「日本の子育ては母親の仕事だから」という考え方に迎合して生活している。

また、対象者の背景をみると、日本人の夫の平均年齢は40歳であり、中国人夫よりも高い年齢である。日本人の夫が育った時代は、日本の経済が高度成長期であり、当時の父親達は常に高度経済成長の担い手として、仕事に没頭し、私的生活を忘れる程働いている。また、彼らが育ってきた環境は家事や育児が男性の役割ではないことを刷り込まれており、中学校の教育においても、女子が家庭科を学習している間に男子は技術を学ぶという男

表3 日本人の夫を持つ母親の背景

対象者	年齢 (歳)	職業	在日年数 (年)	最終学歴	日本語能力	結婚年数 (年)	子どもの年齢
J1	妻	専業主婦	3	専門学校	やや困難	3	2歳7か月
	夫	自営業		学士			
J2	妻	主婦(内職)	3	専門学校	日常会話程度	6	2歳5か月
	夫	会社員		高校			
J3	妻	主婦(パート)	5	学士	日常会話程度	5	4歳
	夫	自営業		学士			
J4	妻	専業主婦	14	学士	堪能	3	7か月
	夫	会社員		学士			
J5	妻	会社員	13	学士	堪能	4	1歳8か月
	夫	会社員		学士			
J6	妻	専業主婦	4	高校	日常会話程度	5	2か月
	夫	会社員		学士			
J7	妻	専業主婦	7	学士	堪能	5	4歳6か月
	夫	会社員		修士課程			
J8	妻	専業主婦	2	短大	やや困難	3	2歳6か月
	夫	会社員		短大			
J9	妻	主婦(パート)	10	短大	日常会話程度	11	8歳
	夫	会社員		学士			
J10	妻	主婦(パート)	5	専門学校	日常会話程度	4	3歳5か月
	夫	会社員		学士			
J11	妻	専業主婦	13	専門学校	堪能	3	2歳3か月
	夫	会社員		高校			

女で異なるカリキュラムを受けて育っている⁹⁾。したがって、現在40代の日本人男性は「父親は外で働き、母親は家で家事育児をする」といった風習の中で育ったため、夫は一家の大黒柱として外で働き、妻は家庭を守るという性別役割分業の考えが強いことが考えられる。それに対し、中国人母親の背景は、夫の学歴より低い者がほとんどであり、結婚のために日本に来た者も半数以上を占めている。つまり、外国人妻の多くは発展途上国の出身で、経済的に自立しておらず、家庭内の地位が低いという現象は普遍的に存在する¹⁰⁾。このような背景の相違が、妻を夫に合わせて生活することを受け入れさせている様子が伺え、そのような中国人母親はすでに日本の習慣・文化に馴染んでいる様子がみられる。また、現在も日本人の夫は黙して語らず、妻と回避的なコミュニケーション

スタイルをとる男性が少数ではない¹¹⁾。このような夫に対して日本語能力が低く、十分な言語的疎通が図れない中国人母親は、一人で家事や子育てを担い、心身的に大きなストレスを抱えている。その上、中国の家族とも離れて生活しており、夫や夫の両親からも支援や理解を得られず、問題があっても一人で抱え込み、孤立無援の立場に置かれている可能性も考えられる。

国際結婚だけではなく、一般の婚姻関係の中でも良いコミュニケーションが取れないと結婚生活はうまく維持できないが、異文化のなかで、育ってきた夫婦はより一層の文化、言葉、習慣、風習の壁があると考えられる。また、今後も国際結婚はより増えていくことが予想されるが、国際的異文化のなかでも安心して育児環境を整えていくのか、今後の課題として考えていきたい。

表4 中国人の夫を持つ母親の子育てと支援の特徴

カテゴリー	サブカテゴリー	インタビュー内容
家事育児は夫婦で分担	家事育児はやれる人がするのが当然	「家事、育児は夫婦で分担している。食事作り、ごみ捨て、子どもの保育園の送迎は夫が行い、洗濯は私がする。子どもが病気の時に、日中ならば私が病院に連れていき、夜ならば夫と一緒に連れていく。週末の買い物などは全部一緒にする。」 C3、C4、C7 「普段夫の仕事が忙しくて、夜2時まで実験室にいるときもあるので、家事・育児の大部分は私がしている。でも私が忙しいときには夫が家事・育児を全般的にする。土日は夫が料理を作ってくれる。美味しいです。その時私は彼に家事・育児全て任せる。」 C2、C5
	中国では両親の支援が得られる	「中国では両方の両親が日頃からよくサポートをしてくれるが、日本に住んでいると、サポートが得られにくい。また、中国では、家政婦の賃金が安いので利用しやすいが、日本では高いのでそれもできない…」 C6、C8 「日本の生活はとても忙しいので、中国のように、両親と同じ都市にいて、すぐサポートが得られる状況があれば、一番良い。特に何か用事があったときや、たまに友達と一緒に遊びに行きたいときなど、交替してくれる人がいない。今は、何でも自分でしなければならない。」 C5、C7
	子育てを夫婦でするのは当然	「夫婦二人の子どもだから、子育てもちろん二人でするものだと思う。」 C2、C3、C10
夫からの心理的支援	夫が常に優しい言葉をかけてくれる	「夫は研究が忙しいから、私が家事の大部分を担っている。それでも夫は家事や育児を分担している。例えば、子どもと一緒に遊んだり、何かを教えたり、子どもの保育園の送迎や、ごみ捨てなどもする。彼のよい所は、優しいところ。私が苦勞していることに対して常に慰めの言葉をかけてくれる。」 C1、C7、C8
産後の‘座月子’（特別な時期の確保）	1か月間の休息時間がある 積極的な両親の支援がある	「実家の両親が予定日のちょっと前に日本に来た。‘座月子’中に、母がいろいろな‘月子食’を作ってくれた。例えば、魚の腹に野菜と肉を入れて蒸した物や、魚のスープ、鳥のスープ、豚足と大豆で作った母乳が出やすい料理、何種類ものお粥など1日に何回も食べさせてくれた。それから、風邪を引くことを心配して、外出を禁止したり、体の血流を悪くし、悪露の排出や、身体の回復を妨げるため、冷水に触れることや飲むことなどを禁止された。母が来てくれた1か月間は静かに休養することができた。赤ちゃんのお風呂や、おむつ交換も両親が手伝ってくれて、とても助かった。」 C2、C3、C4、C5、C6
	夫が積極的に育児休暇をとる	「2回目の出産は中国の両親が来れなかったため、夫が1か月間の休暇を取り、世話をしてくれた。」 C9、C10

在日中国人母親の子育てとその家族からの
支援の特徴に関する研究

表5 日本人の夫を持つ母親の子育てと支援の特徴

カテゴリー	サブカテゴリー	インタビュー内容
家事育児は全て母親が中心	夫の支援が得られない	「家事育児はほぼ全部私がやっている。夫はたまに子どもと遊んだり、寝かせてくれる。自分の自由時間が全然ない。」 J1 「普段夫が仕事で忙しくて、私も何も文句言えず、休みの日も、夫はストレス解消のために、自分の趣味だけをする。」 J4 「中国なら多くの場合、朝ごはんは外で買って食べるが、日本では全部妻が作らなくてはいけない。日本人である夫はご飯を作らないから、産後であってもすべて私が作らなくてはいけなかった。昼食、夕食も同じ。夜は赤ちゃんの面倒をみることに加えて、上の子どもと同じ部屋に寝ているから、夜布団を蹴ったりもするし…本当にもうとても疲れた。全然休養をとれなかった。」 J1
	日本人の夫が家事育児をしないのは日本の風習	「基本はママだね。日本に来たばかりときは、夫がごみ分別をやってくれた。買った食材をどのように調理するかも教えてくれた。でも実際に調理することはない。日本の男性は家事育児をしないのは当たり前と思っている。」 J3 「夫は仕事で家族を養う、私が家事と育児、それは日本の風習だね。」 J11
	言わないとやってくれない	「家事育児の分担ははっきりしていない。料理中に子どもをみたり、お風呂に入れてもらったりはしている。…中国の男性と違って、日本人の夫は家事や育児に対して積極的ではなく、何かやってくれとこちらから言わないと、夫はしてくれないし、家事のこともわからない。」 J2、J4 「たまに私が‘もう疲れた’と夫に言ったら、やってくれるけど、基本は全部私だ。」 J11
	家族の支援が得られない	「1回目の出産では、実家の両親が世話をするために来てくれた。私の代わりに料理を作ってくれたが中華料理しか作れないので、日本人の夫にとっては、毎日が中華料理というのは大変そうだった。結局私が料理をしなければならなかった。私は和食も作れるから。」 J2、J7 「出産のときには、実母に来てほしかったが、私たちは義理の両親と一緒に住んでおり、小姑もいるので、もし母が来ていろいろと不便があると思い、諦めた。普段家族の食事は全て私が作っていたが、産後だけは自分の食事しか作らなかった。子どもの面倒はすべて私がみている。夫は営業の仕事をしているから、帰宅は毎日夜9時ぐらいになるし…毎日余裕がなく疲れている。」 J10 「初めての産でどのように‘座月子’をすればいいのかがわからなかった。その上、一人で子育てを全てするため、‘座月子’すること、休養をとることに對しても考える余裕はなかった。」 J1、J10
義理の両親の支援を得るのは難しい	義理の両親の習慣の違い	「2回目の出産では、日本人の義理の母の家で1か月間過ごした。義理の母の料理は、全部和食で、美味しいけど、毎食だとやはり飽きる。仕方がないわね。義理の母の家では、赤ちゃんの世話などは全部私がしていた。1回目の出産のときに比べると安静、保温の注意もあまり厳しく行わず、冷たいものも食べていた…もちろん実母には内緒だったよ。」 J7、J8 「日本では、‘育児は母親の手’で行うものだと思っているから、義理の母たちもあまり孫の面倒をみてくれない。別に孫が好きじゃないわけではない、そういう風習だから。彼ら自身も子育ては一人で頑張ってきたので、母親とはこんなものだと思っている。そのことは私も理解しているから、最初から義理の両親のサポートは望んでない。」 J8、J11
	義理の両親に頼みづらい	「以前義理の両親に子どもを預けたことがあったが、最初向こうに電話して、挨拶して、都合の確認、何時から何時まで預かって欲しいとか、それから荷物の準備、洋服、ミルク、哺乳瓶…荷物の準備だけで1時間弱も時間がかかった。一つ足りなくても後で文句を言われるかもしれないし、しかも、1時間と言ったら、少し時間が過ぎてもダメ。それだけでもう疲れるから、だから、なるべく自分でする。頼みづらいから…」 J4、J5
夫からの心理的支援がない	夫から心理的な支援が得られない	「夫が日本人で、私よりずいぶん年上なので、優しい人だけど、無口なので、家事育児に疲れていても、夫からの慰める言葉は全然なくて、仕方がない。」 J1、J3
	夫は家事の経験がない	「夫の仕事が忙しくて、毎日9時過ぎ、早くても7時過ぎに帰るから、それで彼も1日疲れているから…しかも義理の両親と一緒に住んでいるから、彼は私と結婚しても家で家事などはしないから、それで仕方がない。」 J6、J9、J10

本研究は乳幼児を持つ母親に焦点を当てた研究である。そのため、対象者が少なく、結果を一般化するには限界がある。今後対象者を拡大し、研究を深める必要があると考える。

結論

本研究は在日中国人母親の子育てとその家族から支援の実態を明らかにすることを目的に、在日中国人母親の家庭生活、夫婦の育児分担状況、家族からの支援状況について調査を行い、以下のことが明らかとなった。

中国人の夫を持つ母親では、〈家事育児は夫婦で分担〉、〈夫からの心理的支援〉、〈産後の‘座月子’（特別な時期の確保）〉3つのカテゴリーが抽出された。一方、日本人の夫を持つ母親の方からは、〈家事育児は全て母親が中心〉、〈義理の両親の支援を得るのは難しい〉、〈夫からの心理的支援がない〉3つのカテゴリーが抽出された。中国人の夫を持つ母親は、育児の方法、家庭内

の生活スタイルが中国と同じで、夫からの支援を多く得ていたが、中国にいる両親からの支援は十分得られていなかった。日本人の夫を持つ母親は、夫に対しての積極的な家事や育児の支援を望んでいるが、文化的背景の相違により得られにくい状態であった。また、日本での生活全般が日本人の生活と同様のスタイルになる傾向にあり、多忙な生活の中で、より日本文化に染められながら子育てや生活を送っていた。

本研究は、同じ中国人の母親であっても、配偶者の国籍や文化的な背景の違いより、子育てに対する家族からの支援も大きく異なっていることが明らかになった。

謝辞

本研究にあたり、貴重な時間を割いてインタビューにご協力いただいた研究参加者の皆様および研究参加者を紹介して下さった方の皆様に、心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 法務省,登録外国人統計,法務省入国管理局, 東京, 2013 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001127507>
- 2) 厚生労働省, 26年我が国の人口動態,夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移—昭和40～平成24年 http://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_1_2.html
- 3) 歌川孝子, 丹野かほる: 在日外国人の異文化圏での妊娠・出産・育児に関する文献検討 1987年から2008年の母子保健研究の分析から,日本看護学会論文集地域看護39: 54-56, 2009
- 4) 杉浦絹子: 育児中の在日ブラジル人女性の日本の母子保健医療に対する認識とその背景 日本の母子保健医療の課題に関する考察(第1報),母性衛生49(2): 236-244, 2009
- 5) 吉田真奈美, 春名めぐみ, 大田えりか, 渡辺悦子, UayanMaria Luisa T. 村嶋幸代:在日フィリピン人母親が子育てで直面した困難と対処,母性衛生 50(2): 422-430, 2009
- 6) 楊文潔, 江守陽子: 在日中国人母親の育児ストレスに関する研究,日本プライマリ・ケア連合学会誌 33(2): 101-109,2010
- 7) 川崎千恵,麻原きよみ: 在日中国人女性の異文化における育児経験—困難と対処のプロセス—,日本看護科学会誌4: 52-62, 2012
- 8) 鄭陽: 在日中国人家庭の育児形態に関する—考察— 一関西在住中国人家庭の育児援助の事例から,都市文化研究 Studies in Urban Cultures Vol.8: 72-87, 2006
- 9) 技術科教育のカリキュラムの改善に関する研究—歴史の変遷と国際比較—,〈教科等の構成と開発に関する調査研究〉研究成果報告書(6), 2001
- 10) 曲曉艷: 国際結婚に関する研究動向と展望,東京大学大学院教育学研究科紀要 49: 266-275, 2009
- 11) 伊藤孝恵: 国際結婚夫婦のコミュニケーションに関する問題背景—外国人妻を中心に,言語文化と日本語教育33: 65-72,2007

**A study on parenting and childcare family support of
Chinese mothers in Japan**

Jian Li, Rumiko Kimura*, Akiko Tsuda*

Abstract

This study was performed to analyze the actual situation and characteristics of parenting and childcare family support of Chinese mothers in Japan. Respondent are 21 mothers with children under 6 years old. Ten of the mothers had a Chinese husband and the remaining 11 had a Japanese husband. We investigated the family life, childcare sharing of couples, and their family support situation. The results indicated that the lifestyles and childcare methods of mothers with Chinese husbands were the same as those in China. They obtain a great deal of help from their husband. However, many mothers reported feeling that it is difficult to obtain support from their parents in China, which they desired. On the other hand, mothers with a Japanese husband also felt that it is difficult to obtain active help with housework and childcare from their husband. In addition, the Chinese mothers living in Japan tend to accept and actively adapt to Japanese culture and lifestyle, such as eating, drinking, and way of childcare. Due to the differences in spouse's nationality and cultural background, Chinese mothers in Japan have different family support with childcare.